

# 移い動どう市し長ちやう室しつ



通算79回目となる移動市長室を、5月14日(月)に開催しました。筑紫野市農業女性グループ協議会(協議会)と懇談を行い、15人の出席がありました。

● 問い合わせ先 秘書広報課

福岡農林事務所福岡普及指導センターの声かけにより、地域で結成されていた各グループが集まって昭和63年に立ち上がった協議会は、今年で30年を迎えます。現在は5つのグループ(双葉会、五月会、つくし会、ひまわり会、農事組合法人山口農産)が所属し、安全安心な農産物と農産加工品の提供および地産地消の推進に取り組んでいます。平成24年11月に実施した移動市長室では、協議会の主な活動内容の報告や課題や要望などの懇談を行いました。今回の懇談では、個々の会員の日常の農業活動や協議会の1年間の活動内容などの報告を受け、意見交換を行いました。

## 筑紫野市農業女性グループ協議会 —くらしを支える「食と農」—



### 日々の活動や農業への思い

会員は、米、麦、野菜などの生産や農産加工をはじめ、それぞれに活動をしています。その様子を一言コメントとともに紹介してもらいました。「安心、安全、新鮮をモットーに専業農家で頑張っています」「地域から必要とされるような、消費者の皆さんに信用されるような安心安全な農畜産物の生産をしています」「鮮度にこだわって新鮮な卵を売っています」「家族や周りの人たちと楽しみながらの農業を目指しています」

「生涯現役でいきたいです」「ぬくもりのある手作りの伝統食を作り続けていきたいと思っています」など、皆さんからの発言がありました。

### 地域で生産、地元で消費をPR

協議会の活動としては、前回、提案を受けた市主催イベントでの啓発として、藤まつりと観月会の年2回、来場者に生産した米からつくったポン菓子を配布しながら地産地消推進についての啓発活動を行うようになったこと、11月のいきいき商工農フェスタには、新鮮野菜やみそを使った具だくさんの豚汁とごはんを出店し、毎年好評を博していることなどが紹介されました。





各会の農産物からつくった料理が振る舞われました



## 地域に根ざした食を考える

「農業女性と消費者のつどい」は、生産者と消費者と一緒に料理をすることで、食と農の結びつきを身近に感じ、地元農産物のおいしさを知ってもらい、地域の食文化を育むことなどを目的に実施しています。平成2年1月に第1回を行い、その思いを受け継ぎながら回を重ね、次回の開催が第30回となります。今年1月のつどいでは、和気あいあいとした雰囲気の中、作った郷土料理を食べながら、「安全・安心な新鮮野菜の味わいを実感した」「生産者に直接会えたことに安心感を覚えた」という消費者からの声や「栄養豊富な旬に野菜を味わってほしい」「地域の食文化に触れ、大切にしてほしい」という会



員の思いなどをそれぞれ交流し合いました。このように、つどいは、顔が見え、交流ができる大切な機会となっており、この報告がありました。

## 和やかに 試食と交流ができました

意見交換では、各グループが準備した料理とお菓子を試食しながら、農業に対する思いや地産地消、協議会活動などについての交流を行いました。生産品目は異なるものの、農業をする女性という共通点の中で、会員同士いろいろな刺激や学びがあり、明日からがんばろうというエネルギーになっていくなどの意見を聞くことができました。

懇談の中での意見は、今後の市政に生かしてまいります。

### 参加者からの感想

・私は初めての参加でした。市長さんといったら、ちょっと遠い存在だなと思っていたのですが、和やかな雰囲気の話ができて、今日は参加してよかったと思いました。  
・とても有意義でした。今日の市長さんのことばは、農業する人にとっては心強かったです。  
・各グループからの持ち寄り品もそれぞれ特色があって、おいしくいただけました。

## 藤田市長の一言

30年の歴史の中で、地産地消はもとより、農業に対しての皆さんの活動から、熱意、継続性を実感することができました。とてもまごころのこもった、おいしい料理をいただきながらの懇談で、非常に心に染みやすい移動市長室であったと感謝申し上げます。

今後ますますの協議会としてのご活躍、また、それぞれの皆さん方がご健勝で、なお一層、前に向かった活動をしていただきますことを心から祈念申し上げ、お礼のあいさつに代えさせていただきます。本当にありがとうございます。ございました。

